

『小半』と書いて何と読みますか

表題を考える前に、あるお店の看板に『二升五合』と書いてあります。何と読みますか。年配の方なら分かると思いますが、答えは『ますます繁盛』と読みます。商売には欠かせない言葉です。ではなぜそう読むかもうお分かりですね。

二升五合は今風に言えば2.5リットルといったところでしょうか。つまり、一升ますます2杯と5合は1升の半分はんじょう(半升)で「升ます升ます半升はんじょう」となるわけです。まあ、中年おじさんの大好きなシャレですね。

では表題にもどりましょう。「小半」は残念ながら「広辞苑」を引いても載っていません。「古語辞典」なら載っているかもしれませんが。

まず「半」を「なから」と読みます。およそ半分とかなかほどという意味です。それに「小」をつけて「こなから」と読みます。さて、その意味は…

「半」が半分ですから、「小半」はさらに小さくなって四半分、つまり4分の1のことです。先ほどの「二升五合」の話にもどりますが、1升の半分を5合と言います。では1升の4分の1はどれだけでしょう。完全に算数コラムになってしまいました、「2.5合」つまり「二合半」となります。

ややこしい話ですが、このことから『二合半』と書いて『こなから』と読ませる居酒屋が福島県にありました。ちなみに、「こなから」とは「ちょうどいい」とか「ほどがいい」という意味です。確かに日本酒2合ではちょっと物足りないし、3合では飲み過ぎのような気がします。そこでちょうどいいのが『二合半』。

すみません、中学生にはちょっと早い話でした。

